

(別 添)

令和2年度

東日本大震災の被災地で適用する  
施工パッケージ型積算方式標準単価表

(空港土木工事:令和2年4月1日以降に入札公告をする工事から適用)

国土交通省

## 東日本大震災の被災地で適用する歩掛一覧

番号	工種名	分類
1	掘削	土工
2	整地	土工
3	路体(築堤)盛土	土工
4	路床盛土	土工
5	積込(ルーズ)	土工
6	間知ブロック張	コンクリート工
7	緑化ブロック積	コンクリート工
8	胴込・裏込コンクリート	コンクリート工
9	現場打基礎コンクリート	コンクリート工
10	天端コンクリート	コンクリート工
11	小型擁壁(A)	コンクリート工
12	小型擁壁(B)	コンクリート工
13	重力式擁壁	コンクリート工
14	もたれ式擁壁	コンクリート工
15	逆T型擁壁	コンクリート工
16	L型擁壁	コンクリート工
17	コンクリート(場所打擁壁)	コンクリート工
18	ヒューム管(B形管)	コンクリート工
19	函渠	コンクリート工
20	コンクリート(場所打函渠)	コンクリート工
21	コンクリート	コンクリート工
22	歩車道境界ブロック	コンクリート工
23	地先境界ブロック	コンクリート工
24	コンクリート舗装工(空港)	コンクリート工
25	コンクリート舗装工	コンクリート工

※上記番号1～23の工種については、「東日本大震災の被災地で適用する施工パッケージ単価」を用いて積算するものとする。

「東日本大震災の被災地で適用する施工パッケージ単価」は、国土技術政策総合研究所ホームページで公表している。

[http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme\\_sekop.htm](http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm)

④ コンクリート舗装工(空港)

1. 数量計算等

1-1 数量算出区分

コンクリート舗装の数量算出区分は、厚さ、強度の相異、舗設場所ごとに区分して算出する。

1-2 材料の使用数量

(1)コンクリートのロス率

コンクリートスラブ厚	25cm以下	25cmを超える場合
ロス率	+0.04	+0.03

(注) 積算数量=設計数量×(1+ロス率)

(2)目地填充材のロス率

ロス率	+0.25
-----	-------

2. 施工方式

2-1 施工方法の選定及び機種の選定

(1) 混 合

コンクリート舗装工は、原則として「レディミクストコンクリート」を用いる。  
ただし前記により難しい場合は中央混合方式による。

(2) 舗 設

舗設は、コンクリートを型枠内に打込み締め上げるもので、原則として舗設方法は機械施工を標準とする。  
ただし、機械施工が困難な場合等は、人力施工とする。

1) 施工機械の組合せ

施工機械の組合せ

舗設方式	敷 均 し	締 固 め	仕 上 げ	摘 要
機械施工	コンクリート スプレッダ	コンクリートフィニッシャ バイブレータ(棒状)	コンクリート レベラ	舗設厚 30cm以下
	コンクリート スプレッダ	コンクリートフィニッシャ バイブレータ(棒状) インナーバイブレータ	コンクリート レベラ	舗設厚 30cmを超 える場合
人力施工		コンクリートバイブレータ (平面及び棒状)	コンクリート 簡易仕上機	

2) 舗装工バイブレータ

使用する機種及び台数

舗設方式	使用する機種及び台数	
	人 力 施 工	機 械 施 工
バイブレータ		
平面バイブレータ	1	
棒状バイブレータ	2	2
インナーバイブレータ		(1)

(注) 機械施工で、コンクリート版厚が30cmを超える場合は、インナーバイブレータ( )を計上する。

(3) 移 動

1) 移動に要する標準時間

舗設機械の移動に要する時間は、2時間を標準とする。

機 械 名	規 格	摘 要
コンクリートフィニッシャ	勾配固定式 3.0~7.5m	( 11.4t)
	勾配固定式 5.0~8.5m	( 13t)
コンクリートスプレッダ	ブレード式(ボックス式) 3.0~7.5m	(ブレード式 6.5t、ボックス式15.5t)
	ブレード式(ボックス式) 5.0~8.5m	(ブレード式 10t、ボックス式17t)
コンクリートレベラ	勾配固定式 3.0~7.5m	( 5.1t)
	勾配固定式 5.0~8.5m	( 9.0t)
インナーバイブレータ	3.5~8.5m	( 7.0t)
振動目地切機	3.5~8.5m	( 0.4t)

(注)インナーバイブレータを使用しない場合は、所要時間30min を減ずるものとする。

2) 移動に使用する機械

工 種	機 種	規 格	摘 要
積 込 卸 し	ラフテレーンクレーン	油圧式	賃 料

(注)レーン移設に使用する機械は上記のとおりとし、クレーン規格は、現場条件により考慮するものとする。

(4) 幅員調整

標準は、調整幅にかかわらず全舗設機械(5機種)の調整1回に必要な歩掛である。

積込に使用する機械はラフテレーンクレーン(油圧式)45t吊(賃料)を標準とする。  
なお、クレーン規格は現場条件により考慮する。

2-2 型 枠

型枠は、原則として鋼製型枠を使用するものとして損料を計上する。

ただし、コンクリート版厚が大きく鋼製型枠を使用できない舗装等については、木製型枠を使用してもよい。

(1) 型枠組立て取外し

舗装用型枠組立て取外しは、人力を標準とする。

(2) 型枠の使用日数又は、回転数

区 分	標準使用日数、標準回転数	摘 要
舗装用鋼製型枠	4日	取外し迄の日数
木製型枠	8回	

(注) 冬期に於ける鋼製型枠の1サイクル当り使用日数は1日加算し5日とする。

(3) 鋼製型枠

規 格	単 位
3m×Hcm	供用日(m)

現行(平成31年度空港土木請負工事積算基準)	被災地で適用する空港土木請負工事積算基準	備考															
<p>2-3 養生 コンクリート舗装の養生方法は、施工の季節、場所等によっても多少変化するが、初期養生と後期養生に区分して行う。</p> <p>(1)初期養生</p> <table border="1" data-bbox="115 415 1347 653"> <thead> <tr> <th>方式</th> <th>方法</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋根養生</td> <td>コンクリート打込みの初期に屋根養生を行い、直射日光、風雨にさらすのを防ぐ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ビニール養生</td> <td>コンクリート版表面に膜養生(ビニール)を行い、0.06kg/m<sup>2</sup>のビニール乳剤原液を散布する。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)後期養生</p> <table border="1" data-bbox="115 747 1347 890"> <thead> <tr> <th>方式</th> <th>方法</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給湿養生 マット</td> <td>初期養生のあと、マットをコンクリート表面に広げ、10/m<sup>2</sup>当りの水を1日2回散布する。</td> <td>コンクリートの表面が露出しないこと。 マットが常にぬれていること。</td> </tr> </tbody> </table>	方式	方法	摘要	屋根養生	コンクリート打込みの初期に屋根養生を行い、直射日光、風雨にさらすのを防ぐ。		ビニール養生	コンクリート版表面に膜養生(ビニール)を行い、0.06kg/m <sup>2</sup> のビニール乳剤原液を散布する。		方式	方法	摘要	給湿養生 マット	初期養生のあと、マットをコンクリート表面に広げ、10/m <sup>2</sup> 当りの水を1日2回散布する。	コンクリートの表面が露出しないこと。 マットが常にぬれていること。	<p>3. 作業能力の算定</p> <p>3-1 舗設</p> <p>(1)コンクリートフィニッシャ作業能力の算定</p> <p>1)鉄網入りコンクリート舗装の場合 (レディーミクストコンクリートの場合) A=W・V・E (整数止めとし、小数第1位を四捨五入する。) A:コンクリートフィニッシャ 1時間当りの舗設面積(m<sup>2</sup>) W:舗設施工幅(m) V:コンクリートフィニッシャの作業速度(m/h) V=22m/h E:作業効率 ※0.6 ※ただし、拡幅工事及び夜間工事等、標準により難しい場合は0～0.2の範囲内で減ずることができる。</p> <p>(2)コンクリート簡易仕上機作業能力の算定</p> <p>1) 舗設厚 30cm以下 250m<sup>2</sup>/日(2回仕上げ) 2) 舗設厚 30cmを超える場合 125m<sup>2</sup>/日(2回仕上げ)</p> <p>(3) コンクリートスプレッダ、コンクリートレベラ、インナーバイブレータ、振動目地切機の作業能力はコンクリートフィニッシャと同一とする。</p>	
方式	方法	摘要															
屋根養生	コンクリート打込みの初期に屋根養生を行い、直射日光、風雨にさらすのを防ぐ。																
ビニール養生	コンクリート版表面に膜養生(ビニール)を行い、0.06kg/m <sup>2</sup> のビニール乳剤原液を散布する。																
方式	方法	摘要															
給湿養生 マット	初期養生のあと、マットをコンクリート表面に広げ、10/m <sup>2</sup> 当りの水を1日2回散布する。	コンクリートの表面が露出しないこと。 マットが常にぬれていること。															
<p>3. 作業能力の算定</p> <p>3-1 舗設</p> <p>(1)コンクリートフィニッシャ作業能力の算定</p> <p>1)鉄網入りコンクリート舗装の場合 (レディーミクストコンクリートの場合) A=W・V・E (整数止めとし、小数第1位を四捨五入する。) A:コンクリートフィニッシャ 1時間当りの舗設面積(m<sup>2</sup>) W:舗設施工幅(m) V:コンクリートフィニッシャの作業速度(m/h) V=22m/h E:作業効率 ※0.6 ※ただし、拡幅工事及び夜間工事等、標準により難しい場合は0～0.2の範囲内で減ずることができる。</p> <p>(2)コンクリート簡易仕上機作業能力の算定</p> <p>1) 舗設厚 30cm以下 250m<sup>2</sup>/日(2回仕上げ) 2) 舗設厚 30cmを超える場合 125m<sup>2</sup>/日(2回仕上げ)</p> <p>(3) コンクリートスプレッダ、コンクリートレベラ、インナーバイブレータ、振動目地切機の作業能力はコンクリートフィニッシャと同一とする。</p> <p style="text-align: center;">3-2-18</p>	<p>3. 作業能力の算定</p> <p>3-1 舗設</p> <p>(1)コンクリートフィニッシャ作業能力の算定</p> <p>1)鉄網入りコンクリート舗装の場合 (レディーミクストコンクリートの場合) A=W・V・E・0.9 (整数止めとし、小数第1位を四捨五入する。) A:コンクリートフィニッシャ 1時間当りの舗設面積(m<sup>2</sup>) W:舗設施工幅(m) V:コンクリートフィニッシャの作業速度(m/h) V=22m/h E:作業効率 ※0.6 ※ただし、拡幅工事及び夜間工事等、標準により難しい場合は0～0.2の範囲内で減ずることができる。</p> <p>(2)コンクリート簡易仕上機作業能力の算定</p> <p>1) 舗設厚 30cm以下 225m<sup>2</sup>/日(2回仕上げ) 2) 舗設厚 30cmを超える場合 113m<sup>2</sup>/日(2回仕上げ)</p> <p>(3) コンクリートスプレッダ、コンクリートレベラ、インナーバイブレータ、振動目地切機の作業能力はコンクリートフィニッシャと同一とする。</p> <p style="text-align: center;">3-2-18</p>																

3-2 目 地

(1)コンクリートカッタ作業能力の算定

$$Q = V \cdot E$$

Q:コンクリートカッタ1時間当り作業能力(m/h)

V:作業速度(m/h)

E:作業効率 0.7

1)コンクリートカッタの切断作業量

機 種	切断深さ	作業速度	作業能力	摘 要
ブレード径20cm	5cmまで	30m/h	21.0m/h	
〃 30〃	10 〃	23 〃	16.1 〃	

2)広目地切断の場合は目地幅に応じてブレードを重ねて使用する。但し切断幅は、下表を標準とする。

ブレード径	切 断 幅	摘 要
20cm	2.1～4.5mm/枚	〔例〕目地巾10mmの場合はブレード径30cm2枚を使用する。
30〃	2.1～6.5 〃	

3)コンクリートカッタブレードの損耗(全損)

コンクリート切断 320m/枚

(2)ジョイントシーラ作業能力の算定

$$Q = 214 \text{ (m/h)}$$

4. 施工歩掛及び単価表

4-1 コンクリート舗装工

(1) コンクリート舗設(機械施工) 1,000 m<sup>2</sup>当り単価表

(レディーミクストコンクリートの場合)

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量	摘 要
コンクリート		m <sup>3</sup>		1,000m <sup>2</sup> ×舗装厚×(1+ロス率)
(鉄網)		m <sup>2</sup>		
コンクリートフィニッシャ運転	勾配固定式 3.0m～7.5m 勾配固定式 5.0m～8.5m	h		1,000m <sup>2</sup> ÷A
コンクリートスプレッダ運転	ブレード式(ボックス式) 3.0m～7.5m ブレード式(ボックス式) 5.0m～8.5m	〃		1,000m <sup>2</sup> ÷A
コンクリートレベラ運転	勾配固定式 3.0m～7.5m 勾配固定式 5.0m～8.5m	〃		1,000m <sup>2</sup> ÷A
インナーバイブレータ運転	3.5m～8.5m	〃		1,000m <sup>2</sup> ÷A
振動目地切機運転	3.5m～8.5m	日		$\frac{1,000 \text{ m}^2}{A \times T}$
特殊作業員		人		$\frac{1,000 \text{ m}^2}{A \times T} \times n$
普通作業員		〃		— 〃 —
諸雑費 (注)1. GSE通行帯を施工する場合は下記の機械を標準とする。			1	労務費の6%

コンクリートフィニッシャ(勾配固定式 3.0m～7.5m)

コンクリートスプレッダ(ブレード式(ボックス式) 3.0m～7.5m)

コンクリートレベラ(勾配固定式 3.0m～7.5m)

2. インナーバイブレータは原則としてコンクリート版厚が30cmを超える場合に適用する。

3. 振動目地切機は挿入工法の場合にのみ計上する。

4. A:フィニッシャの時間当り作業量(m<sup>2</sup>/h)

T:フィニッシャの運転日当り運転時間(h)

n:編成人員(人)

補助労務1日当り編成人員

普通作業員	特殊作業員
10人	8人

5. 諸雑費にはバイブレータ(棒状)の機械損料を含む。

(2) プライムコート(コンクリート舗設時[機械施工])

材料の使用数量

1)材料のロス率

区 分	ロ ス 率	摘 要
瀝青材料	+0.15	



2)プライムコート

プライムコートの標準散布量

工 種	施工区分	散 布 量
プライムコート	新 設	1.00/m <sup>2</sup>

(注)1. 上表により難しい場合は、別途散布量を定めることができる。

2. 養生に砂が必要な場合は、標準として、1,000m<sup>2</sup>当り1.5m<sup>3</sup>の砂を計上し、散布労務として普通作業員を砂1m<sup>3</sup>当り0.5人計上することができる。

施工機械の選定

1)アスファルトディストリビュータ 作業能力

単位散布量	1,000m <sup>2</sup> 当り散布日数	摘 要
プライムコート(1.00/m <sup>2</sup> )	0.05日	

(注)アスファルトディストリビュータの「補給箇所から散布箇所までの往復に要する時間(min)」は考慮していないので、上表により難しい場合は別途算定すること。

2)エンジンスプレーヤ 作業能力

単位散布量	1,000m <sup>2</sup> 当り散布日数	摘 要
プライムコート(1.00/m <sup>2</sup> )	0.8日	

(3) プライムコート 1,000m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	1,150	1.00/m <sup>2</sup> ×1.15×1,000m <sup>2</sup> =1,150
アスファルトディストリビュータ運転		日	0.05	
(エンジンスプレーヤ運転)		(日)	0.8	
(トラック)	(2t積)	(日)	0.8	
諸経費		式	1	瀝青材費の2%

(注)アスファルトディストリビュータを標準として計上する。

ただし、現場状況等によりエンジンスプレーヤを計上することができる。

(4) コンクリート舗設(人力施工) 100㎡当り単価表  
(レディーミクストコンクリートの場合)

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			30cm以下	30cmを超	
コンクリート		m <sup>3</sup>			100㎡×舗装厚× (1+ロス率)
コンクリート簡易仕上機運転	3.5m～5m	日	0.40	0.80	
特殊作業員		人			$\frac{100 \text{ m}^2}{Q} \times n$
普通作業員		//			— // —
諸雑費		式	1	1	労務費の6%

(注)1. 異形部施工の場合のみ適用する。

(注)2. Q:コンクリート簡易仕上機の1日当り作業量(m<sup>2</sup>/日)

n:編成人員(人)

普通作業員	特殊作業員
12人	9人

諸雑費にはバイブレータ(棒状、平面)の機械損料を含む

プライムコートについては、4-1-(2)の単価表を標準とする。

(5) 幅員調整1回当り単価表

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	3.5	
特 殊 作 業 員		//	5.3	
普 通 作 業 員		//	6.8	
ラフテレーンクレーン賃料	(油)45t吊	日	0.86	
諸 雑 費		式	1	労務費の17%

(注)1. 諸雑費率はワイヤロープ、ボルト、台木等の損料であり、労務費合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

2. 現場条件によりインナーバイブレータ、振動目地切機を使用しない場合は、下表の歩掛を減ずるものとする。

	土木一般世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	ラフテレーンクレーン 運転日数(日)
インナーバイブレータ	0.7	0.9	1.3	0.20
振動目地切機	0.6	0.6	1.0	0.07

(4) コンクリート舗設(人力施工) 100㎡当り単価表  
(レディーミクストコンクリートの場合)

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			30cm以下	30cmを超	
コンクリート		m <sup>3</sup>			100㎡×舗装厚× (1+ロス率)
コンクリート簡易仕上機運転	3.5m～5m	日	0.44	0.88	
特殊作業員		人			$\frac{100 \text{ m}^2}{Q} \times n$
普通作業員		//			— // —
諸雑費		式	1	1	労務費の6%

(注)1. 異形部施工の場合のみ適用する。

(注)2. Q:コンクリート簡易仕上機の1日当り作業量(m<sup>2</sup>/日)

n:編成人員(人)

普通作業員	特殊作業員
12人	9人

諸雑費にはバイブレータ(棒状、平面)の機械損料を含む

プライムコートについては、4-1-(2)の単価表を標準とする。

4-2型 枠工

(1) 舗装用型枠設置撤去 100m当り単価表

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
舗装用スチールホーム	(3m×舗装厚さ)	供用日	4.0(5.0)	損料( )内数量は冬期数量
ピンポール		本	200	0.9 × 1 / 20 (20回使用)
諸雑費		式	1	上記の2%
トラック	2t	h	2.6	
普通作業員		人		
ゲタ材損料	角材	式	1	必要に応じて計上する。

(注)舗装型枠数量は、100mとする。

1) 型枠設置撤去 100m当りの労力歩掛

舗装厚	型枠据付	ピン付	小運搬	取外整備	その他	計
15cm～20cm未満	2人	1.5人	1.0人	1.0人	0.5人	6.0人
20cm～25cm "	2 "	1.5 "	1.0 "	1.5 "	1.0 "	7.0 "
25cm～30cm "	2 "	1.5 "	1.5 "	2.0 "	1.0 "	8.0 "
30cm～42cm以下	2 "	1.5 "	2.0 "	2.0 "	1.5 "	9.0 "

2) 舗装型枠1サイクル当り供用日数は4日を標準とし、冬期においては1日加算し5日とする。

(2) 軌条設置撤去(コンクリート上) 100m当り単価表

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
軌 条	15kg/m	供用日	2.0	
普通作業員		人	3.0	
トラック(クレーン付)運転	4t積2t吊	h	2.7	
諸雑費		式	1	労務費の5%

(注)軌条数量は、100mとする。

4-3目 地 工

(1) 膨張目地 100m当り単価表

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
目地板材	幅 厚	m <sup>2</sup>		
目地填充材		kg		設計数量×(1+ロス率)
チェアー		kg		
ダウエルバー	径 長	本		
キャップ		個		
トラック(クレーン付)運転	4t積2t吊	h	2	
ジョイントシーラ運転		日		
普通作業員		人		
諸雑費		式	1	填充材費の13%

(注) 諸雑費は、ジョイントクリーナ、プライマー等の費用である。

1) 膨張目地の普通作業員歩掛

膨張目地 100m当り

(人)

目地板加工	1.8	
ダウエルバー設置	1.6	
チェアー据付	2.1 (4.2)	チェアーが両側の場合 は( )内を計上

(2) 収縮目地 100m当り単価表(カット工法)

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
目地填充材		kg		設計数量×(1+ロス率)
バックアップ材	径	m	100	
チェアー		kg		
タイバー・ダウエルバー	径 長	本		
トラック(クレーン付)運転	4t積2t吊	h	2	
コンクリートカット運転		日		
カットブレード損耗		枚		
ジョイントシーラ運転		日		
普通作業員		人		
諸雑費		式	1	填充材費の28%

- (注) 1. 縦方向収縮目地のうち舗装の自由端から最初の2レーンの目地はタイバーを用いる。  
 2. 諸雑費は、ジョイントクリーナ、プライマー等の費用である。

1) 収縮目地(カット工法)の普通作業員歩掛

収縮目地 100m当り

(人)

バックアップ材挿入	0.68	
タイバー・ダウエルバー設置	1.3	
チェアー据付	2.1 (4.2)	チェアーが両側の場合 は( )内を計上

(3) 収縮目地 100m当り単価表(挿入工法)

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
目地板材	幅 厚	m <sup>2</sup>		
目地填充材		kg		設計数量×(1+ロス率)
チェアー		//		
ダウエルバー	径 長	本		
トラック(クレーン付)運転	4t積2t吊	h	2	
コンクリートカッタ運転		日		
カッタブレード損耗		枚		
ジョイントシーラ運転		日		
普通作業員		人		
諸雑費		式	1	填充材費の28%

(注) 諸雑費は、ジョイントクリーナ、プライマー等の費用である。

1) 収縮目地(挿入工法)の普通作業員歩掛

収縮目地 100m当り

(人)

目地板挿入	3.8	
ダウエルバー設置	1.3	
チェアー据付	2.1 (4.2)	チェアーが両側の場合は( )内を計上

(4) 施工目地 100m当り単価表

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
目地填充材		kg		設計数量×(1+ロス率)
バックアップ材	径	m	100	
チェアー		kg		
タイバー・ダウエルバー	径 長	本		
トラック(クレーン付)運転	4t積2t吊	h	2	
コンクリートカッタ運転		日		
カッタブレード損耗		枚		
ジョイントシーラ運転		日		
普通作業員		人		
諸雑費		式	1	填充材費の28%

- (注) 1. 縦方向施工目地のうち舗装の自由端から12m以内の目地はタイバーを用いる。  
 2. 諸雑費は、ジョイントクリーナ、プライマー等の費用である。

1) 施工目地の普通作業員歩掛

施工目地 100m当り

(人)

バックアップ材挿入	0.68	
タイバー・ダウエルバー設置	1.3	
チェアー据付	2.1 (4.2)	チェアーが両側の場合 は( )内を計上

4-4 養生

(1) 屋根養生(35㎡)1基1式当り単価表

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
丸パイプ	φ48.6	m	55	損料×供用日数
シート		㎡	48	
普通作業員		人	6.3	
諸雑費		式	1	労務費の5%

(注)1. 屋根所要組数

$$n = \frac{\text{一日当り打込み面積}}{35\text{㎡}} \times \frac{1}{8} \text{ (基)}$$

但し工事の規模により1/5~1/10にすることができる。

2. シートの償却率は30%とする。

(2) ビニール養生 100㎡当り単価表

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
養生材	ビニール材	kg	6	
普通作業員		人	0.1	
諸雑費		式	1	労務費の5%

(3) マット養生 100㎡当り単価表

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
マット	t=5mm	㎡	138	
普通作業員		人	0.8	
散水車	3,800ℓ	h	2	
水		㎥	1.5	
諸雑費		式	1	労務費の5%

(注) マットの使用回数は、7回を標準とする。

4-4 養生

(1) 屋根養生(35㎡)1基1式当り単価表

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
丸パイプ	φ48.6	m	55	損料×供用日数
シート		㎡	48	
普通作業員		人	6.93	
諸雑費		式	1	労務費の5%

(注)1. 屋根所要組数

$$n = \frac{\text{一日当り打込み面積}}{35\text{㎡}} \times \frac{1}{8} \text{ (基)}$$

但し工事の規模により1/5~1/10にすることができる。

2. シートの償却率は30%とする。

(2) ビニール養生 100㎡当り単価表

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
養生材	ビニール材	kg	6	
普通作業員		人	0.11	
諸雑費		式	1	労務費の5%

(3) マット養生 100㎡当り単価表

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
マット	t=5mm	㎡	138	
普通作業員		人	0.88	
散水車	3,800ℓ	h	2	
水		㎥	1.5	
諸雑費		式	1	労務費の5%

(注) マットの使用回数は、7回を標準とする。



4-5. 機械運転単価表

(1) 散水車運転1時間当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
主 燃 料	軽 油	ℓ		3,800ℓ
運転手(一般)		人		
損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	

(2) コンクリートフィニッシャ運転1時間当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			3.0~7.5m	5.0~8.5m	
主 燃 料	軽 油	ℓ			
運転手(特殊)		人			
損 料		h	1		
諸 雑 費		式	1		

(3) コンクリート簡易仕上機運転1日当り

運転6時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			3.5~5.0m		
主 燃 料	軽 油	ℓ			
特殊作業員		人	1		
損 料		日	1		
諸 雑 費		式	1		

(4) コンクリートスプレッダ運転1時間当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			ブレード式	ボックス式	
			3.0~7.5m 5.0~8.5m	3.0~7.5m 5.0~8.5m	
主 燃 料	軽 油	ℓ			
運転手(特殊)		人			
損 料		h	1	1	
諸 雑 費		式	1	1	

(5) コンクリートカッタ運転1日当り

運転5時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量		摘 要
			径20cm	径30cm	
主 燃 料	ガソリン	ℓ			
特殊作業員		人	1	1	
損 料		日	1	1	
諸 雑 費		式	1	1	

(6) トラック運転1時間当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
			2t積	
主 燃 料	軽 油	ℓ		
運転手(一般)		人		
損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	

(7) ジョイントシーラ運転1日当り

運転4時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
			100ℓ	
主 燃 料	ガソリン	ℓ	8	
プロパン		kg	20	
特殊作業員		人	1	
損 料		日	1	
諸 雑 費		式	1	

(注)プロパンは、必要に応じて計上する。

(8) コンクリートレベラ運転1時間当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
			3.0~7.5m 5.0~8.5m	
主 燃 料	軽 油	ℓ		
運転手(特殊)		人		
損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	

(9) インナーバイブレータ運転1時間当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
			3.5~8.5m	
主 燃 料	軽 油	ℓ		
運転手(特殊)		人		
損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	

(10) 振動目地切機運転1日当り

運転2時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
			3.5~8.5m	
主 燃 料	ガソリン	ℓ		
特殊作業員		人	0.5	
損 料		日	1	
諸 雑 費		式	1	

(11) トラック(クレーン付)運転1時間当り

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
			4t積 2t吊	
主 燃 料	軽 油	ℓ		
運転手(特殊)		人		
損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	

(12) アスファルトディストリビュータ(自走式)運転1日当り

運転4.3時間

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
			2,000~3,000ℓ	
主 燃 料	軽 油	ℓ		
運転手(一般)		人	1	
損 料		日	1	
諸 雑 費		式	1	

(注)ディストリビュータの運転日当り運転時間(T)は、4.3h/日とする。

⑤ コンクリート舗装工

1. 適用範囲

レディーミクストコンクリートを用いたセメントコンクリート舗装工事(1車・2車(両・片勾配))に適用する。

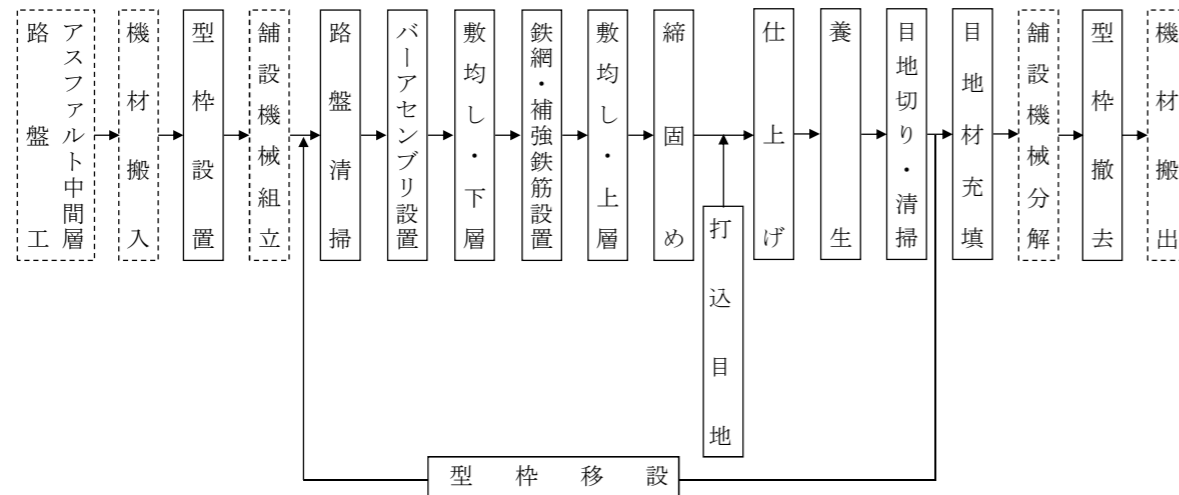
なお、特殊舗装(連続鉄筋コンクリート・プレストレストコンクリート舗装等)及びスリップフォームペーパーを用いる場合には適用しない。

1-1 適用出来る範囲

(1)平均舗設厚が 30cm 以下の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。  
 2. 路盤工は、「第3編3章②路盤工」による。  
 3. アスファルト中間層の施工は、第3編3章③アスファルト舗装工」による。  
 4. 1車線舗設における舗設機械の移設を含む。

図2. 1 施工フロー

3. 舗設工

舗設は機械舗設を標準とするが、施工量が少ない場合、交差点、すりつけ部等機械持込みが不適当な場合は、人力舗設とする。

3-1 機種を選定

機械舗設における機械・規格は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

車線数	作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
1車線	舗 設	コンクリートスプレッダ	ブレード式 舗装幅3~7.5m	台	1	
		コンクリートフィニッシャ	勾配固定型 舗装幅3~7.5m	〃	1	
		コンクリートレベラ	勾配固定型 舗装幅3~7.5m	〃	1	
	舗設機械移設	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値)25t吊	〃	1	
2車線	舗 設	コンクリートスプレッダ	勾配可変型・ブレード式 舗装幅5~8.5m	台	1	
		コンクリートフィニッシャ	勾配可変型 舗装幅5~8.5m	〃	1	
		コンクリートレベラ	勾配可変型 舗装幅5~8.5m	〃	1	

⑤ コンクリート舗装工

3-2 舗設歩掛

舗設歩掛は、次表を標準とする。

表3.2 舗設歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

名称	単位	機械舗設		人力舗設	
		1車	2車	平均舗設厚 20cm以上	平均舗設厚 20cm未満
土木一般世話役	人	0.81	0.73	1.56	1.08
特殊作業員	//	2.52	1.12	4.85	3.35
普通作業員	//	5.66	2.98	9.23	6.38
左官	//	-	0.66	-	-
コンクリートスプレッタ運転	h	1.42	1.31	-	-
コンクリートフィニッシャ運転	//	1.42	1.31	-	-
コンクリートレベラ運転	//	1.42	1.31	-	-
ラフテレーンクレーン運転	日	0.12	-	-	-
諸雑費率	%	18	20	18	27

- (注) 1. 機械舗設で1車とは1車線施工であり、2車とは2車線同時施工をいう。  
 2. 1車において、片側交互交通規制で施工する場合は、ラフテレーンクレーン運転及び諸雑費を除いた、上記歩掛の各々に1.1を乗じた数値を計上する。  
 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 4. 「2車」のコンクリートフィニッシャは、分解組立費、運搬費、運搬中の損料を別途計上する。  
 5. 諸雑費は、養生に使用するマット、散水車等の費用及び舗設に使用する軌道・型枠、機械(トラック(クレーン装置付 ベーストラック4t級・吊能力2.9t)、コンクリートカッタ等)の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。ただし、人力施工の場合は、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 6. ターンテーブルが必要な場合は別途計上する。

3-3 舗設用コンクリート使用量

舗設用コンクリート使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計面積 (m}^2\text{)} \times \text{平均舗設厚 (m)} \times (1 + K) \dots \text{式 3.1}$$

K: ロス率

表3.3 ロス率(K)

平均舗設厚	25cm未満	25cm以上30cm以下
ロス率	0.04	0.03

3-4 目地材料費

コンクリート舗装における横・縦目地の材料費については、別途計上すること。

3-2 舗設歩掛

舗設歩掛は、次表を標準とする。

表3.2 舗設歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

名称	単位	機械舗設		人力舗設	
		1車	2車	平均舗設厚 20cm以上	平均舗設厚 20cm未満
土木一般世話役	人	0.90	0.81	1.73	1.20
特殊作業員	//	2.80	1.24	5.39	3.72
普通作業員	//	6.29	3.31	10.26	7.09
左官	//	-	0.73	-	-
コンクリートスプレッタ運転	h	1.58	1.46	-	-
コンクリートフィニッシャ運転	//	1.58	1.46	-	-
コンクリートレベラ運転	//	1.58	1.46	-	-
ラフテレーンクレーン運転	日	0.13	-	-	-
諸雑費率	%	18	20	18	27

- (注) 1. 機械舗設で1車とは1車線施工であり、2車とは2車線同時施工をいう。  
 2. 1車において、片側交互交通規制で施工する場合は、ラフテレーンクレーン運転及び諸雑費を除いた、上記歩掛の各々に1.1を乗じた数値を計上する。  
 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 4. 「2車」のコンクリートフィニッシャは、分解組立費、運搬費、運搬中の損料を別途計上する。  
 5. 諸雑費は、養生に使用するマット、散水車等の費用及び舗設に使用する軌道・型枠、機械(トラック(クレーン装置付 ベーストラック4t級・吊能力2.9t)、コンクリートカッタ等)の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。ただし、人力施工の場合は、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 6. ターンテーブルが必要な場合は別途計上する。

4. 単価表

(1) 機械舗設 (1車) 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表3.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		式3.1
石粉又は瀝青材		kg, 0		必要に応じて計上
鉄網	D6 150×150	m <sup>2</sup>		
鉄筋鉄網	D13 200×200	t		
補強鉄筋	D13	〃		
縦目地	(膨張)(収縮)	m		目地材・目地板・スリップバー・チェア等を含む
横目地	(膨張)(収縮)	〃		
縦自由縁部		〃		目地材・目地板等含む
コンクリート	ブレード式	h		表3.1、表3.2
スプレッド運転	舗装幅3~7.5m			機械損料
コンクリート	勾配固定型	〃		表3.1、表3.2
フィニッシャ運転	舗装幅3~7.5m			機械損料
コンクリート	勾配固定型	〃		表3.1、表3.2
レベラ運転	舗装幅3~7.5m			機械損料
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)25t吊	日		表3.1、表3.2 機械賃料
諸雑費		式	1	表3.2
計				

(2) 機械舗設 (2車) 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表3.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
左官		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		式3.1
石粉又は瀝青材		kg, 0		必要に応じて計上
鉄網	D6 150×150	m <sup>2</sup>		
鉄筋鉄網	D13 200×200	t		
補強鉄筋	D13	〃		
縦目地	(膨張)(収縮)	m		目地材・目地板・スリップバー・チェア等を含む
横目地	(膨張)(収縮)	〃		
縦自由縁部		〃		目地材・目地板等含む
コンクリート	勾配可変型・ブレード式	h		表3.1、表3.2
スプレッド運転	舗装幅5~8.5m			機械損料
コンクリート	勾配可変型	〃		表3.1、表3.2
フィニッシャ運転	舗装幅5~8.5m			機械損料
コンクリート	勾配可変型	〃		表3.1、表3.2
レベラ運転	舗装幅5~8.5m			機械損料
諸雑費		式	1	表3.2
計				

(3) 人力舗設100m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人		表3.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		式3.1
石粉又は瀝青材		kg, ℓ		必要に応じて計上
鉄 網	D6 150×150	m <sup>2</sup>		
鉄 筋 鉄 網	D13 200×200	t		
補 強 鉄 筋	D13	〃		
縦 目 地	(膨張)(収縮)	m		目地材・目地板・スリップバー・
横 目 地	(膨張)(収縮)	〃		チェア等を含む
縦自由縁部		〃		目地材・目地板等含む
諸 雑 費		式	1	表3.2
計				

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
コンクリートスプレッダ	ブレード式 舗装幅3～7.5m	機-1	
コンクリートフィニッシャ	勾配固定型 舗装幅3～7.5m	機-1	
コンクリートレベラ	勾配固定型 舗装幅3～7.5m	機-1	
コンクリートスプレッダ	勾配可変型・ブレード式 舗装幅5～8.5m	機-1	
コンクリートフィニッシャ	勾配可変型 舗装幅5～8.5m	機-1	
コンクリートレベラ	勾配可変型 舗装幅5～8.5m	機-1	